

## ◎住居手当削減で年4520万円の節約を実現!

小金井市職員には「住居手当」が支給されています。小金井市は、東京都職員の約2倍という高水準での支給を続けてきました。私の議会での度重なる追及と、昨年の直接請求署名運動の市民パワーが効果を発揮して、来年度から支給率が東京都と同じ水準になることになりました。この改革で生み出される財源は年約4520万円です。

## ◎しかし、課題も残っています

一方、扶養手当やボーナス(期末勤勉手当)の加算率などは、相変わらず東京都職員より高額・高率となっています。私は、引き続き、市民の皆様にご理解いただけない高額給与の支払いに関して、厳しく追及してまいります。

また、小金井市役所の場合、必ずしも正規職員でなくても対応できる業務に、数多くの正規職員を配置しているケースが残存しています。丁寧に、しかし着実に、そのようなケースを改めさせ、市民サービスの財源を創出してまいります。

増税の前にやるべきことは「山ほどある」。それが小金井市役所です。

# 共同処理で「ごみ問題」の解決を さらなる「ごみ減量」に向けて新しい政策の導入を

私は、この2年間、ごみ処理施設建設等調査特別委員長を務めてきました。委員長に就任した直後、佐藤市長の公約問題が勃発。半年で市長辞任という事態となりました。稲葉市長が復職した直後には、二枚橋焼却場跡地の全体を取得できる可能性が完全に潰れるという事態に直面しました。現在は、日野市が打ち出した「日野市・国分寺市・小金井市」3市共同処理方針が段階的に進行しております。種々のハードルはあると思っておりますが、現下の小金井市の厳しい状態から考えて、この方針を着実に進める必要があると思っております。

さらなる「ごみ減量」も急務です。とりわけ可燃ごみの大部分を占める「生ごみ」「ざつがみ」「その他の紙類」に関しては、新しい政策も導入して、大幅な減量を行う工夫が必要です。稲葉市長は新しい政策の導入に後向きですが、ごみで他市に迷惑をかけていることを自覚してもらいたいものです。全国の自治体でさまざまな取り組みが進んでおりますので、4月からさっそく、関心の高い市民の皆様と協働で、具体的な政策づくりに取り組みたいと思っております。

1月27日、TBSの日曜日の番組「噂!東京マガジン」で小金井市のごみ問題が特集されました。小金井市内で生ごみの減量に熱心に取り組む市民の方々から協力依頼があったので取材に応じました。

市民の皆様が熱心にごみ減量努力に取り組んでいただいていることと、長年にわたって無為無策が続けた稲葉市政の下で、小金井市内には可燃ごみ処理施設の確保が極めて厳しい状態にあることを説明いたしました。

ごみの大幅な減量のためには、行政がきちんとした枠組をつくり、多くの市民の皆様と「協働」を果たしていくことが必要です。



## 渡辺大三のプロフィール



幼少期は東北4県で育つ

●昭和41年、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市・宮城県仙台市・山形県山形市を経て、昭和50年(小3の時)、小金井市貫井北町3丁目に転入。●小金井市立本町小学校(本町5丁目)、小金井市立小金井第一中学校(桜町2丁目)・東京都立小金井北高等学校(緑町4丁目)・中央大学法学部政治学科を卒業。●平成2年、株式会社河北新報社(本社=仙台市)に新聞記者として入社、編集局勤務。その後、小金井に戻り地元衆議院議員の秘書を2年間務める。●平成5年、小金井市議選に初当選(26歳)。以降、5期連続当選。●この間、議会では、議会運営委員長・予算特別委員長・行財政改革調査特別委員長・ごみ処理施設建設等調査特別委員長・議会報編集委員長、農業委員、二枚橋衛生組合議会議員などを務める。●現在、地域では、「情報公開こがねい」共同代表、「こがねい情報公開市民会議」会員、「生ごみ処理を考

える小金井市民協議会」役員、「貫井北町商工振興会」事務局長、「中央大学学員会小金井支部」幹事、「都立小金井北高等学校同窓会」幹事長、「琉球文化を普及する会」事務局長などを務める。

■ 渡辺大三のホームページ

<http://www.daizou.org/>

■ 渡辺大三のツイッター

<http://twitter.com/watanabedaizou>

### 「情報公開こがねい」からのお願い

● 活動資金カンパにご協力願います。

郵便振替口座番号 00150-3-663896

口座名義 情報公開こがねい

● ボランティアを募集しています。

※ご不明の点がございましたら、表面の連絡先まで御一報願います。